



発行者
香川県生活科教育研究会会長
高橋 英武
発行日 平成19年2月10日

NO. 21

今回の内容 生活科ワークブックの活用によるポートフォリオ

1 趣旨

(1) 生活科ワークブックの特質を生かして

生活科ワークブックは、学びの生活科を構築するための「振り返り学習」において、様々な効果的利用ができる。まず、「知的な気付きのためのヒント」として、事象をより正確に観察しようとする場面においては、認知的攪乱を起こす手立てとなる。何気なく見ていた野菜の花は、どんなつき方をしているのだろうかという生活科ワークブックの絵をヒントに、もう一度体験・表現活動を行うことによって、正確な知識が得られる。「こうだったのか」、「もっとよく見てみよう」という声が聞かれるようになり気付きの深まりが見られる。また「学び方のヒント」として単元の流れを概観して、児童自身が見通しを持った学習ができる。表現物の作り方、まとめ方など個性を大切にしながら、選択の場がある。さらに、「地域にはない教材」を間接的に写真や図などで見ることにより、自分の住んでいる地域との比較や、興味の広がりも期待できる。また、教師にとっては「どんな材料で、どんな環境構成を」と考えるときに多くの視点を見つけることができる。このような生活科ワークブックの特質を生かして「学びの生活科」を目指したい。

(2) 生活科ワークブックをポートフォリオとして

① 観察・体験の記録カードを生かして

野菜の生長を観察・記録しようとする時、児童は全体を捉えようとして、大きさや数に目が向くことが多い。しかし、観察の視点を絞り「今日は花を見よう」とポイントをはっきりさせることで花の形、つき方、表面の様子など細部まで観察し、正確に表現することができる。花の観察の体験が次の葉や実の観察に生かされ、記録カードが集積される。集積された記録をもう一度見直すことによって、野菜の生長の全体像が見えてくる。また、細かい視点で見た他の野菜との比較もしやすい。

② 地域との協働を生かして

地域との協働のきっかけとなる視点が、生活科ワークブックに示されている。それをもとに地域の人たちとの交流が広がり、深まった。野菜を通してのかかわりだけでなく、日常生活の中で感じた地域の人への思いや、地域の人から学んだことなどを、記録していくことによって、地域に対する愛着がわいてくる。また、教師が地域に足を運んで学んだことを児童に伝えたり、児童の思いや願いをかなえるために地域とのパイプ役になったりすることも協働の活動を進めるために大切である。

③ ポートフォリオ評価として

生活科ワークブックをもとに集積されたポートフォリオから「野菜絵本」を作った。児童は、いかに自分の野菜とかかわったか、気付きは深まったかなど、完成した表現物を見て自己評価ができる。また、友だち同士、よさを見つかったり、家庭に持ち帰って保護者に見てもらうことにより、学校での活動を理解したり、協力してもらったりするきっかけになる。教師も、児童の学びを振り返り、教師自身の自己評価ができ、次の活動に役立てることができる。地域に対して発信し、外部評価をもらうことも可能である。

2 ワークブックを生かしたポートフォリオとその具体例

(1) 生活科ワークブックの使い方

① 学び方のヒント

野菜の生長の過程をどのように記録し、表現物(野菜絵本)にまとめていくか、学習の見通しを持つためにワークブック p9を活用した。野菜の大きさを紙テープで測って記録したり、他の野菜と比べてたりして、自分の野菜の伸びを知ることで生長の様子について学ぶことができた。

〈ワークブックp9〉



(野菜の長さを紙テープで測り野菜絵本に貼ったもの)

(モロロ)のたかさいべ

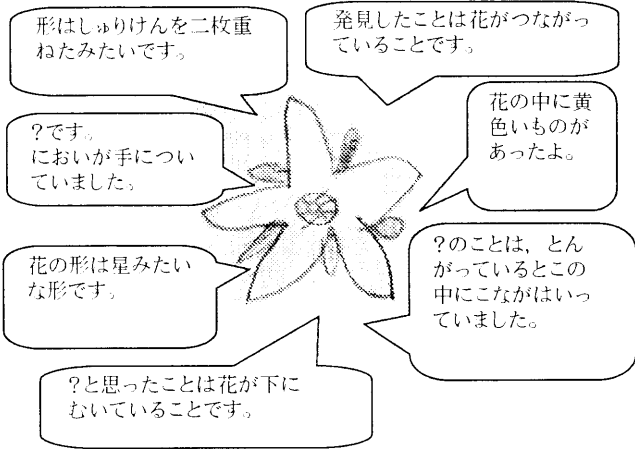
足りな 大き前とう
りきよ なくも
ない。 くな少
の肥 っしこ
か料 てしは
なが いか は、
速の だけ ぼく
いび ど たち
な。 速 さ は 少
野 菜 の 背
さ は す ぐ ぐ
く

まき きち
つり ゅう
りは じ
支 柱
に 変
か

(2) 観察・体験の記録【カードを生かして】

① 視点をしばった観察

ワークブックp11では、観察部を切り取って貼るなど視点を絞って観察できるようになっている。ワークをもとに、自分の野菜の観察したいところを決め、葉、花、実やまきひげなどそれぞれの野菜で観察する視点を選び観察できるワークシートを作成した。



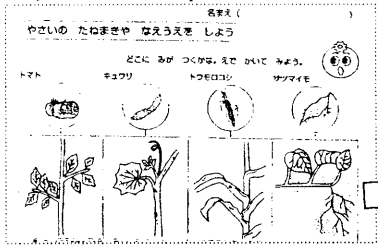
毎日見ているがいざクイズにされると答えられない。あれっと思って考えることで、詳しく観察することができた。

- (クイズ例)
- ・花の中はからっぽかな。
 - ・花びらの形はどれかな。
 - ・お花のつき方はどれかな。

② 知的な気づきのヒント

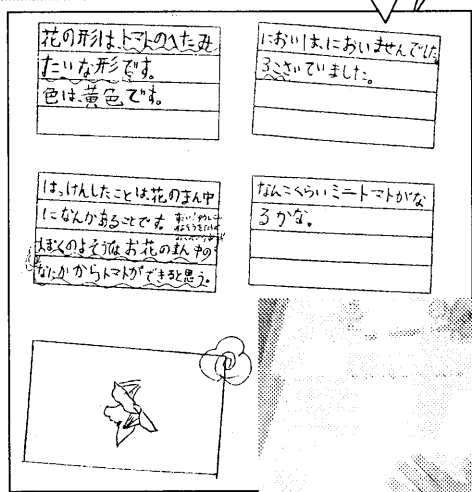
野菜によって世話の仕方や生育が異なるが、ワークを活用することで育ち方の特徴に気付くきっかけとなる。本実践では、授業の導入でワークp8を活用したクイズをして実のつき方を予想し、生長を期待することができた。

〈ワークブックp8〉



赤ミの 枯
ちニ け
やト て
んマ た
がト み
いた お
たよ。 花
を、

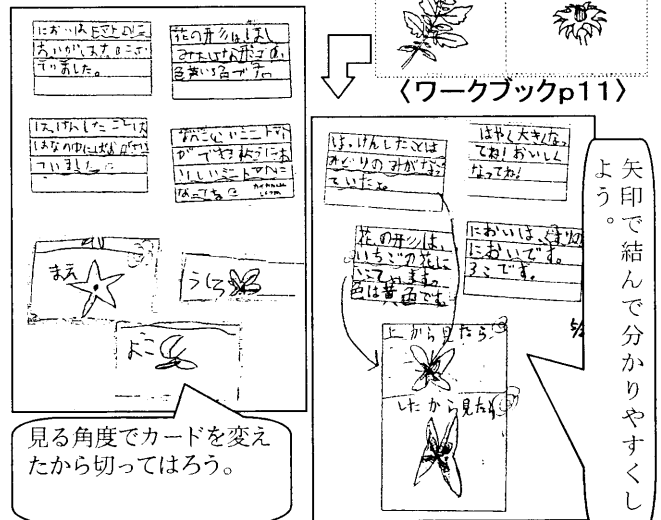
予想では、お花の下から実ができると思う。



花から実ができることを予想する児童が多く、へた(がく)への関心も強かった。ミニトマトの実が大きくなってくると、がくは上へそりかえってくることを発見した児童もいた。

観察項目	
(一年生のときから)	(二年生になって加わったもの)
①色	⑦見る角度
②形(～に、にている。)	⑧自分の予想
③触った感じ	
④思ったこと	
⑤発見したこと	
⑥?と思ったこと	

ワークブックを参考にして絵のカードと文のカードを分け、項目ごとにカードを書き、それを自分なりのレイアウトで野菜絵本にまとめていった。

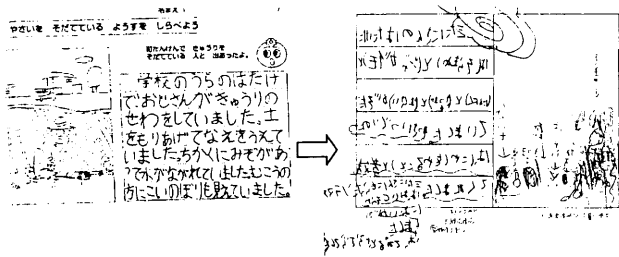


実物投影機でテレビに映したミニトマトをみながら友達がワークシートに記録してきた発見を聞いて、下の方の茎が太いことや、花がすべて下向きについていることなど、気づきを深めることができた。

(3)地域の人たちとの協働を生かして

① 地域の野菜名人との交流

ワークブックのP7を活用して、地域の人の畑を見学した。事前に、育てやすい野菜と、畑に植えてある野菜とについて話をさせていただくよう依頼しておくことで焦点を絞った学習ができた。

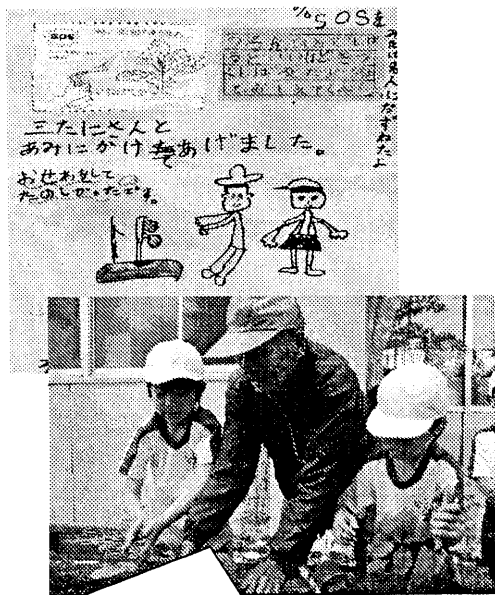


〈ワークブックP. 7〉

〈活用後〉

② 野菜を通しての交流

野菜づくりを通じた交流の回数を重ね、3回目の施肥ごろからは、児童から進んで質問ができるようになった。地域の人も、一つ一つの質問に丁寧に答えてくれ、親密な交流が見られた。秋の野菜祭りの交流では、招待した地域の人に対して敬う言動をとることができた。世話になった地域の人たちに児童が育てた夏野菜のお裾分けをしたり、地域の人の収穫した冬野菜をお返しにもらったりして、一年を通じた交流を続けることができた。



〔地域の協働者の感想より〕

- ・よくあいさつしてくれるようになった。野菜のことや、私の体調を気遣った声かけをしてくれる。
- ・最近では、年中野菜が出回り季節感がなくなってきた。野菜を育てることで、子どもたちが自然に季節に採れる野菜に興味を持ってほしい。
- ・子どもたちに教えるため、自分も本を読むなどしてさらに勉強した。子どもたちの発見は、大人にはないような視点で感心した。

お礼の手紙とともに、完成した野菜絵本を見てもらった。野菜づくりを通して、児童と交流してきた感想をもらい、内容を教師を通じて児童に伝えた。児童は、協働者から外部評価をもらうことで、これを加え、ポートフォリオを充実させることができた。そして、その言葉から野菜づくりをやり遂げた達成感を再び味わうことができた。

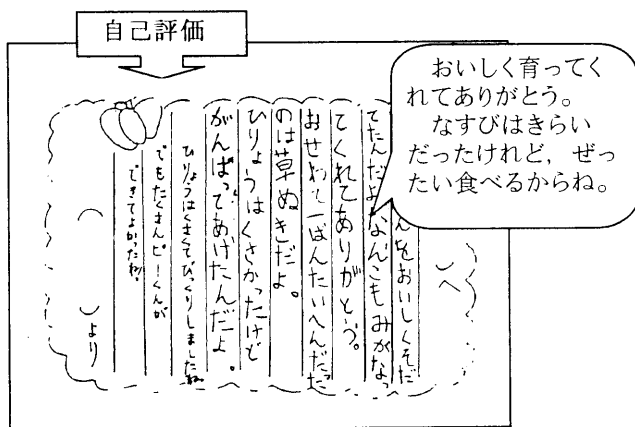
(4)ポートフォリオ評価

単元を通して学んできたことを各自がポートフォリオにまとめ直した。その際、これまでの自分の野菜の世話の状況や授業で書いた観察カードを振り返りながら作っていった。

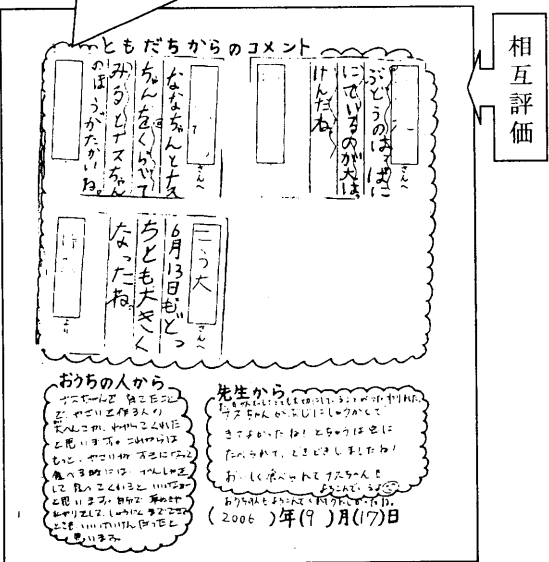
その後、自分の育てた野菜に宛てて手紙を書くことで、自己評価の入った手紙がポートフォリオに加わった。

このポートフォリオを交換して友だち同士で読み合い、相互評価をカードに書いたところ、友達の世界の様子を思い出したり、観察カードの中から発見したことについて、よさを認め合うことができた。

また、家庭に持ち帰って家の人からも家庭での世話の様子やポートフォリオの内容について評価してもらい、児童の励みになるとともに、教師の評価の参考になった。教師からは、一人一人のポートフォリオについて、がんばったところや気づきのすばらしいところを認めるコメントを書き込むことで、教師の自己評価にもなった。



ママは、40日でできるなんて、初めて知ったよ。
キュウリのはっぱとスイカのはっぱがにているのは、大発見だね。



家庭からの評価

教師の自己評価

友達の野菜と比べて思ったことを書いたり、予想しながら観察したりできていて、すごいなと思いました。よく頑張りましたね。

草抜きや水やりなど毎日お世話と観察をよく頑張りましたね。お母さんにも喜んでもらえてうれしかったね。

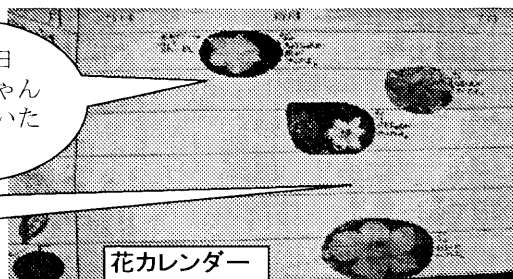
3 生活科ワークブックの活用上の工夫点

(1) ワークブックをもとにした学級の表現物

各野菜の花の咲く時期を比べることができ、花カレンダーを作成することで、野菜によって花の咲く時期とその特徴が異なることを捉えられるようにした。

5月30日
きゅうちゃんの
花が咲いたよ。

6月12日
スイミーが
咲いたよ。

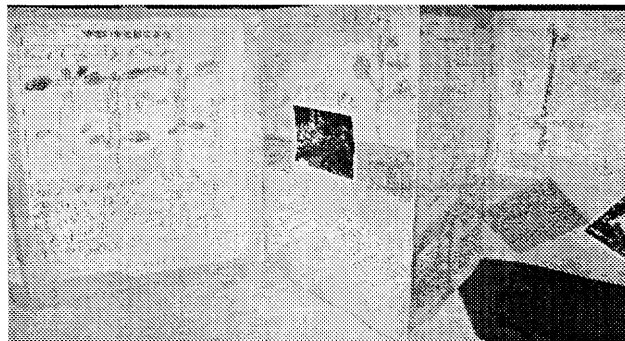


花カレンダー

(2) ワークブックをもとにしたポートフォリオと野菜絵本

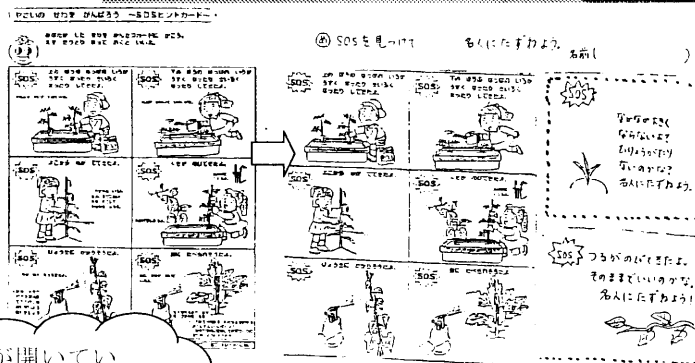
生活科ワークブックをもとに集積されたポートフォリオから「野菜絵本」を作った。今まで自分たちがしてきた野菜の世話の流れが一目で分かるように、それぞれのページをじゃばらにして絵本を仕上げた。

児童は、完成した表現物を見て自己評価することができ、また、友だち同士よさを認め合い、相互評価することもできた。家庭に持ち帰り、学校での活動を理解していただき、協力していただくきっかけにもなった。教師も児童の学びを振り返り、教師自身の自己評価ができ、次の活動に役立てることができた。

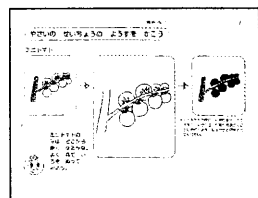


(3) ワークブックを作り変える

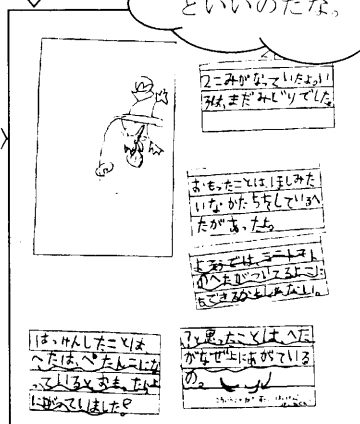
生活科ワークブックは、ポイントを置いた学習ができ、様々な学び方ができるようにもなっている。そこで、児童の意識の流れに沿うように扱う順番を変えたり、内容に手を加えたりして、使い方の工夫ができるのではないかと考えた。地域の実態から学校独自のワークシートや日常観察カードと組み合わせることで、児童が表現しやすいものとなり、本単元においては科学的認識をより高め、学び方や学びの視点についてのヒントになることが多くあった。



葉に穴が開いている野菜が多いな。もくさくえきをかけるといいのだな。



〈ワークブック p 13〉
ワークブックのP13を参考に、ミニトマトの実のつきかたを観察した。事前に絵クイズをすることで、予想をしながら観察することができた。



板書から

野菜ごとに違うSOSを見つけ、仲間分けを板書することで、虫に食われている野菜や、つるが伸びている野菜が全体として捉えるようにした。

(4) ワークブックをもとにした情報発信

生活科ワークブックをもとにしたポートフォリオや野菜絵本を振り返り、これまでに学んできた中で自分が一番発表したいことを選び、保護者や地域の人に見ていただく発表会を行った。その準備の段階で児童から生活科ワークブックを生かした台詞がでてきた。また、このような発表会をもつことで、地域の方から評価をいただき次の活動に生かすことができた。

4 参考図書

かいかたずかん(4) やさいのうえかたそだてかた 岩崎書店
やさいのずかん(絵本図鑑シリーズ) 岩崎書店